

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境政策特別講義 I (開発と環境)	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-原 美登里	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>身近な環境保全について考えるために、水環境を取り上げる。その際、自然地理学の基本的な見方・考え方を理解するとともに、「水」を取り巻く自然環境や社会・経済的環境における諸問題を通して、水の現状を把握・理解し、今後われわれが水環境や水問題にどう対処して行くかを考える契機とする。さらに、水にまつわる文化についても、考える一助となることを目指す。</p> <p>到達目標 本講義の到達目標は以下の通りである。1. 身近な水環境についての基礎知識を身につけることができる。2. 気象に関する基礎知識を身につけることができる。3. 水環境を通じた環境保全について理解することができる。4. 身近な地域の水環境について、自ら調べることができる。これらはレポートや試験から到達度をみる。</p>	<p>水環境を中心に講義を進めます。みなさんもぜひ水環境を含めた地球・地域の環境問題に興味を持ち、積極的に情報収集を行いましょう。まずは、身近な水環境へ赴いてみてください。本講義はアクティブラーニングを実践します。自ら考え、行動することを望みます。</p>

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス・水文学とは</td><td>講義で提示された参考書を閲覧する</td></tr> <tr><td>2</td><td>水の惑星＝地球（水の総量・分布）</td><td>講義に提示された図表を理解する</td></tr> <tr><td>3</td><td>気象の基礎知識</td><td>注意報・警報について調べる</td></tr> <tr><td>4</td><td>気象に関する注意報・警報に関するディスカッション</td><td>地域の注意報・警報を理解する</td></tr> <tr><td>5</td><td>気象のメカニズム</td><td>現住地のハザードマップを準備する</td></tr> <tr><td>6</td><td>ハザードマップに関するグループディスカッション</td><td>災害時の行動計画をたてる</td></tr> <tr><td>7</td><td>大気大循環を理解する</td><td>大気大循環を理解する</td></tr> <tr><td>8</td><td>水収支を学ぶ</td><td>水収支を理解する</td></tr> <tr><td>9</td><td>水循環を学ぶ</td><td>水循環を理解する</td></tr> <tr><td>10</td><td>水道に関する基礎知識</td><td>沖縄県の水道について調べる</td></tr> <tr><td>11</td><td>日本における水道システム</td><td>本州の水道について調べる</td></tr> <tr><td>12</td><td>流域変更と水移動（身近な水と生活用水）</td><td>身近な水道について調べる</td></tr> <tr><td>13</td><td>現住地・出身地における水道に関するグループディスカッション</td><td>身近な水辺景観の写真を準備する</td></tr> <tr><td>14</td><td>水辺景観を知る</td><td>身近な水環境を理解する</td></tr> <tr><td>15</td><td>沖縄の水と文化</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>テスト</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	ガイダンス・水文学とは	講義で提示された参考書を閲覧する	2	水の惑星＝地球（水の総量・分布）	講義に提示された図表を理解する	3	気象の基礎知識	注意報・警報について調べる	4	気象に関する注意報・警報に関するディスカッション	地域の注意報・警報を理解する	5	気象のメカニズム	現住地のハザードマップを準備する	6	ハザードマップに関するグループディスカッション	災害時の行動計画をたてる	7	大気大循環を理解する	大気大循環を理解する	8	水収支を学ぶ	水収支を理解する	9	水循環を学ぶ	水循環を理解する	10	水道に関する基礎知識	沖縄県の水道について調べる	11	日本における水道システム	本州の水道について調べる	12	流域変更と水移動（身近な水と生活用水）	身近な水道について調べる	13	現住地・出身地における水道に関するグループディスカッション	身近な水辺景観の写真を準備する	14	水辺景観を知る	身近な水環境を理解する	15	沖縄の水と文化		16	テスト		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	ガイダンス・水文学とは	講義で提示された参考書を閲覧する																																																			
2	水の惑星＝地球（水の総量・分布）	講義に提示された図表を理解する																																																			
3	気象の基礎知識	注意報・警報について調べる																																																			
4	気象に関する注意報・警報に関するディスカッション	地域の注意報・警報を理解する																																																			
5	気象のメカニズム	現住地のハザードマップを準備する																																																			
6	ハザードマップに関するグループディスカッション	災害時の行動計画をたてる																																																			
7	大気大循環を理解する	大気大循環を理解する																																																			
8	水収支を学ぶ	水収支を理解する																																																			
9	水循環を学ぶ	水循環を理解する																																																			
10	水道に関する基礎知識	沖縄県の水道について調べる																																																			
11	日本における水道システム	本州の水道について調べる																																																			
12	流域変更と水移動（身近な水と生活用水）	身近な水道について調べる																																																			
13	現住地・出身地における水道に関するグループディスカッション	身近な水辺景観の写真を準備する																																																			
14	水辺景観を知る	身近な水環境を理解する																																																			
15	沖縄の水と文化																																																				
16	テスト																																																				
	テキスト・参考文献・資料など																																																				
	<p>①テキストは使用せず、パワーポイントを中心に、必要に応じてプリントや写真を用いて授業を進めます。</p> <p>②できるだけ、日本の島々の位置や大きさが把握できる地図を持参して下さい(中学や高等学校で使った地図帳も可)。</p> <p>③各自で準備する資料をもとに、授業を進めます。</p>																																																				
	<p>学びの手立て</p> <p>①集中講義ですので、一日休むと話が理解できなくなります。欠席しないようにしてください。</p> <p>②疑問点は必ずメモしておき、講義の際に積極的に質問・意見を述べてください。</p> <p>③グループディスカッションや作業を伴う授業を実施することがあります。積極的に参加してください。</p> <p>④授業開始時に作業の説明等を実施しますので、遅刻はしないようにしてください。</p> <p>⑤現住地および地元における身近な水（湧水・井戸・水路・河川）について、写真を準備し、歴史や概要などについて調べておいてください。</p> <p>⑥講義で学んだことについて、地元での状況等を確認しましょう。</p>																																																				
	評価	講義中の作業・ディスカッション内容等20%、レポート40%、試験40%																																																			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ 本講義を受講して、身近な水資源・水利用・水辺景観などに興味を持って、調べてみましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 「経済・社会の問題を論理的に考察する力」を要請する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 経済学特別講義Ⅲ（日本経済事情）	期別 集中	曜日・時限 集中	単位 2
	担当者 -櫻澤 誠	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ	
			各回の授業終了後（休憩時間）に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄現代史（特に経済構想、観光政策）について検討していく。授業は講義およびそれをふまえた受講生による作業回・発表回で構成している。	メッセージ 本講義を通して、実社会でのさまざまな判断を行う際にも重要なスキルとなる、現代史についての客観的な理解ができるようになることを受講生には期待したい。
	到達目標 ・沖縄現代史（特に経済構想、観光政策）に関する文献・史資料の内容や意図を正確に読み取り、客観的に検討することができる。 ・具体的事例を取り上げ、図書館等で調査を行い、集めた情報を用いて、自らの議論を組み立てることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業の概要と導入	参考文献を事前に読む
	2	沖縄現代史 講義1	参考文献を事前に読む
	3	沖縄現代史 講義2	参考文献を事前に読む
	4	沖縄現代史 講義3	参考文献を事前に読む
	5	沖縄現代史 講義4	参考文献を事前に読む
	6	戦後沖縄経済構想史 講義1	参考文献を事前に読む
	7	戦後沖縄経済構想史 講義2	参考文献を事前に読む
	8	戦後沖縄経済構想史 講義3	参考文献を事前に読む
9	戦後沖縄経済構想史 作業回	参考文献を事前に読む	
10	戦後沖縄経済構想史 発表回	参考文献を事前に読む	
11	戦後沖縄観光政策史 講義1	参考文献を事前に読む	
12	戦後沖縄観光政策史 講義2	参考文献を事前に読む	
13	戦後沖縄観光政策史 講義3	参考文献を事前に読む	
14	戦後沖縄観光政策史 作業回	参考文献を事前に読む	
15	戦後沖縄観光政策史 発表回、授業全体のまとめ	参考文献を事前に読む	
16			
テキスト・参考文献・資料など (参考文献) 櫻澤誠『沖縄現代史』中公新書、2015年			
学びの手立て 集中講義を受講する前に、参考文献（『沖縄現代史』）を必ず読んでおくこと。また、集中講義の終了直後に短時間で最終レポートをまとめることが必要となる。			
評価 授業への取り組み〔作業・発表、ディスカッションへの参加など〕（50%） 最終レポート（50%）			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 「日本経済史Ⅰ」「日本経済史Ⅱ」「日本経済論Ⅰ」「日本経済論Ⅱ」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計学特別講義	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高橋 聡	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>企業が毎年公開する有価証券報告書は、過去の活動実績と将来予測をする際に必要なデータの宝庫です。ただ、その分析には一定の知識が必要となります。この講義では、財務諸表に開示されるデータがどこから来て、どこに向かおうとしているのかを知ることを目標とします。</p>	<p>社会に数多くある企業が業界のなかでどのように位置づけられ、将来性があるのかを知ることは、これから社会に出て行く学生の皆さんには必要な知識です。また、この講義で学ぶ分析方法は、卒業論文を作成する際のヒントにもなります。企業を分析する際に必要な手法を厳選し、段階を経て学ぶなかで、就職活動・卒業論文に必要な分析手法を体得してみませんか？</p>
到達目標	<p>本講義は、財務諸表が複式簿記の技術を経て作成されることを知っている学生が、集積された財務データを、業界内での企業の特徴や、強さ・弱さを分析するなかで利用し、将来に向けた戦略を立案できるようになることを目標とします。そのため、分析の途中には、財務諸表から離れる分析が必要になりますが、本講義では、いくつかの分析を通じて、企業の活動成果はすべて財務諸表に集約されること、将来に向けた活動の原資も財務諸表のなかから導き出す必要があることを知り、企業を冷静な目で分析できるようになることが期待されます。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	会計学・簿記の概略の予習
	2	業界分析－企業の選択－	業界分析の復習
	3	業界分析－企業が属する業界の特徴－	業界分析の復習
	4	業界分析－業界内での企業の特徴－	業界分析の復習
	5	経営分析－ファイブフォース分析－	経営分析手法の復習
	6	経営分析－P P M分析－	経営分析手法の復習
	7	経営分析－S W O T分析－	経営分析手法の復習
	8	財務分析－収益性分析－	財務分析手法の復習
	9	財務分析－安全性分析－	財務分析手法の復習
	10	財務分析－成長性分析－	財務分析手法の復習
	11	総括（分析結果の統合－視点の解説－）	統合的視点のまとめ
	12	総括（分析結果の統合－学生サンプルの開示－）	統合的視点のサンプルとの対比
	13	報告の準備（1）学生チームの分析結果の集積	総合的視点の確立
	14	報告の準備（2）学生チームの分析結果の調整	総合的視点の確立
15	報告の実施（1）学生チームによる研究成果報告	総合的視点の確立	
16	報告の実施（2）研究成果討論・総評（試験代替）		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>創成社より近刊予定の教材を教科書として使用する予定です。</p>
-------	---

学びの手立て	<p>本講義は、分析手法の講義の後、チームでの実践学修を定めることを予定しています。そのため、遅刻・欠席が多くなると、共同で作業をするチームのメンバーに迷惑がかかります。受講を希望する学生の皆さんは、原則、遅刻・欠席せず、講義時間内で分析手法を体得するように努めてください。</p> <p>また、講義時間内で、分析手法を体得できない学生には、質問を受け付けますので、その日の講義内容は、その日のうちに理解するようにしてください。</p>
--------	--

評価	<p>評価方法は、講義最終日に実施するチームの共同研究成果報告の内容で行います。本講義の評価には、教員だけでなく、受講者自身の他チームへの感想も、一部加点として反映させたいと考えております。これは、皆さんと同じ立場の学生がどの程度かを知り、今後の学修に生かすことが重要だと考えているからです。その意味でも、皆さんには、毎回の講義への出席が求められます。出席点は、一部平常点として考慮する可能性がありますので、積極的に受講するようにしてください。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：財務会計、管理会計、経営戦略論、経営分析、監査論</p> <p>本講義で学修した企業分析の基礎体系を関連科目などを通じよりの確な意思決定ができるよう研鑽を積んでください。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 学科のカリキュラムポリシー3（各専門分野における諸課題について深く学ぶための「応用科目」を設置）に関連する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多文化間コミュニケーション特別講義	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金 間愛（キムウネ）	2年	授業終了後に教室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄と韓国の歴史社会状況を踏まえながら、米軍占領、日本「復帰」、独裁政治そして民主化運動という歴史的な出来事に焦点を当て、文化活動について比較・考察を行う。この授業を通して、抑圧された人々がどのように抵抗文化運動を行ってきたのかについて理解を深めることを目的とする。</p>	<p>本授業では、演劇・映像作品を通して、沖縄と韓国の歴史・社会的背景をよく理解し、文化と社会との密接な関わりを学ぶ。ただし、授業の進捗状況により、一部の内容が変更・追加される場合がある。</p>
	到達目標	
	<p>沖縄と韓国で起こっていた抵抗文化運動を比較しながら、改めて「沖縄」が置かれた歴史社会的な状況について問い直すことを目標とする。この授業では、前半は沖縄の近現代史が描かれた戯曲『人類館』を丁寧に読みながら、沖縄の社会状況について学び、後半では「韓国」社会に焦点を当て、韓国の民主化過程において行われた文化運動について学ぶことで、自分自身がおかれている社会だけではなく、似たような近現代の歴史を歩んできた韓国社会についても理解が深まると期待できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：東アジアの近現代史概要および授業の内容について	
	2	演劇「人類館」鑑賞	戯曲『人類館』を事前に読む
	3	演劇集団「創造」と文化運動Ⅰ：米軍占領期の活動に注目して	
	4	演劇集団「創造」と文化運動Ⅱ：日本「復帰」以降の活動に注目して	
	5	「人類館」から考える差別問題	
	6	「人類館」から考える言語問題	
	7	「人類館」から考える戦争：沖縄戦	
8	「人類館」から考える戦争：米軍支配とベトナム戦		
9	韓国の近現代史：日本の植民地支配から解放（日本の敗戦）まで	配布資料を事前に読む	
10	韓国の近現代史：分断体制から独裁体制まで		
11	映画「光州518」鑑賞		
12	韓国の近現代史：1987年体制（民主化）以降		
13	韓国の民主化運動と歌		
14	韓国の民主化運動と演劇		
15	韓国の民主化運動と美術		
16	小論文テスト		
	テキスト・参考文献・資料など		
	教科書は用いない。参考文献・資料は必要に応じて授業内で配布する。		
	学びの手立て		
	事前に沖縄近現代史関連書籍を読むことが望ましい。毎回授業後、授業内容を踏まえた感想および疑問点などを書いたレスポンスシートを提出してもらおう。詳細は初回の授業で説明する。		
	評価		
	授業後のレスポンスシート（45%）、期末小論文テスト（55%）から総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	【カリキュラムポリシーとの関連】3. 各専門分野における諸課題について深く学ぶための「応用科目」を設置。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文化特別講義	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-白田 理人	2年	shiratarihito@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>鹿児島県の奄美群島から沖縄県までおよそ800kmにわたる琉球列島の言語は、日本語と同系統ではあるが、音の面でも文法の面でも日本語と大きく異なり、様々な地域変種を有する。本授業では、琉球列島の言語の特徴とその多様性について、ことばを客観的に分析する言語学の観点から考察する。言語調査の方法と実際、琉球列島の言語文化の消滅危機や保存継承の問題についても扱う。</p>	<p>授業担当者は奄美群島北部（喜界島・奄美大島）の言語を専門的に研究しています。現地調査で得たデータをみなさんと一緒に分析してみたいと思います。琉球列島の言語の特徴・多様性を考えるために適宜日本語（方言含む）や他言語も取り上げて共通点・相違点を探っていきます。日頃使われている言語に潜むルール・パターンを見出す姿勢を持って授業に臨みましょう。</p>
到達目標	<p>琉球列島の言語および言語学の基礎知識を得る。 仮説と検証により分析を進めるプロセスを理解し、課題の中で実践できる。 言語を含めた伝統文化の保存継承の問題について、主体的に考え、解決策を検討できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス／ことばの位置付け(1)一言語と方言、標準語・共通語	授業内容の復習	
	2	ことばの位置付け(2)一日琉語語の系統関係、琉球列島内の区分	授業内容の復習	
	3	言語の体系性と類型論	授業内容の復習	
	4	言語と文化・認識・思考	授業内容の復習	
	5	調査研究の方法と実際(1)「ことばを記録・記述する」とは？	授業内容の復習	
	6	調査研究の方法と実際(2)一質問調査と自然談話の収集・書き起こし	授業内容の復習	
	7	音の特徴(1)一母音と子音	授業内容の復習	
	8	音の特徴(3)一音の高低（アクセント・イントネーション）	授業内容の復習	
	9	音の特徴(2)一音のまとまり（音節構造）／主題形（〇〇は）における音の交替	授業内容の復習	
	10	文法の特徴(1)一代名詞と数／二種類の「私たち」	授業内容の復習	
	11	文法の特徴(2)一主格助詞「～が」の分布と名詞句階層／呼称名詞の特徴	授業内容の復習	
	12	文法の特徴(3)一Yes/No疑問文と疑問詞疑問文／「なぜ」疑問文の特徴	授業内容の復習	
13	言語の消滅危機と言語維持・再活性化をめぐる(1)	授業内容の復習		
14	言語の消滅危機と言語維持・再活性化をめぐる(2)	授業内容の復習		
15	まとめ一琉球列島のことばと世界のことば	授業内容の復習		
16				
実践	テキスト・参考文献・資料など	教科書は使用せず、授業内で資料を配布する。		
学びの手立て	出席が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めない。 授業内課題（ペアワーク・グループワーク・各回の内容に対する質問・コメントを含む）に積極的に取り組むこと。			
評価	レポート（70％）、授業内課題（15％）、平常点（15％）によって評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	沖縄の言語、琉球語学概論、琉球語会話Ⅰ・Ⅱ、琉球語学特講Ⅰ・Ⅱ。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語教育特論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-池野 修	3年	英米(野口) noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「英語授業における言語活動」をメインテーマとして、英語コミュニケーション能力の基盤作りの活動、定着・習熟のための活動、活用・応用の活動まで、様々な活動を実際に体験しながら、その指導上の工夫や留意点などについて考えます。また、コミュニケーションの土台となる英語学習意欲についても、関連のエピソードの分析を通して、多面的に理解を深めます。</p>	<p>英語教育はとても興味深く、魅力的な分野です。様々な言語活動を体験しながら、また他の受講生と考えを交流しながら、より良い英語教育について一緒に考えましょう。</p>
到達目標	<p>(1) 「(英語) コミュニケーション」「(英語) コミュニケーション活動」について原理的に考察することを通して、これらの概念に対する理解を深める。 (2) 英語コミュニケーション能力の基盤作りの活動、定着・習熟のための活動、活用・応用の諸活動を英語学習者として体験し、英語教授者としてそれぞれの活動の意義や実施上の留意点などについて理解する。 (3) 「英語の学習意欲」について、意欲を高める/低下させる要因について理解し、学習意欲について多面的に考察するための様々な視点を獲得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	英語の音作り	授業の復習とレポート内容の構想
	2	「コミュニケーション(活動)」と何か	授業の復習とレポート内容の構想
	3	英語インプット活動と Teacher Talk	授業の復習とレポート内容の構想
	4	英語コミュニケーションの土台を作る、定着・習熟のための活動 (1)	授業の復習とレポート内容の構想
	5	英語コミュニケーションの土台を作る、定着・習熟のための活動 (2)	授業の復習とレポート内容の構想
	6	リーディング活動のバリエーション (1) (Pre- and In-Reading 活動)	授業の復習とレポート内容の構想
	7	リーディング活動のバリエーション (2) (Post-Reading 活動)	授業の復習とレポート内容の構想
	8	英語コミュニケーション活動 (1) (Show & Tell)	授業の復習とレポート内容の構想
	9	英語コミュニケーション活動 (2) (Discussion)	授業の復習とレポート内容の構想
	10	英語コミュニケーション活動 (3) (Debate, Tasks, etc.)	授業の復習とレポート内容の構想
	11	英語による言語活動の種類	授業の復習とレポート内容の構想
	12	英語教科書にみられる言語活動の分析	授業の復習とレポート内容の構想
	13	英語学習意欲に関するエピソードの分析	授業の復習とレポート内容の構想
14	英語学習意欲を高める/低下させる要因	授業の復習とレポート内容の構想	
15	英語学習意欲を高めるための方略	授業の復習とレポート内容の構想	
16	まとめとレポート課題		
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストは使いません。資料は授業の中で配布します。	
学びの手立て	この授業は(教員による講義ではなく)受講生による活動が中心になるので、受講される方は、積極的に活動に参加する、授業に自らが貢献するという強い意志を持って下さい。		
評価	評価は次の2つに基づいて行います。 (1) 授業活動への参加 (50点) (2) レポート (50点) 3つの到達目標の達成度は、主としてレポートの内容を元に判断しますが、到達目標達成のためには授業活動への積極的な参加も必要不可欠であるため、それも評価対象といたします。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 英語科教育法演習Ⅰ, 英語科教育法演習Ⅱ (2) 理論と実践を融合し、演習ⅠおよびⅡで求められる模擬授業へと昇華したい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	民俗・人類学特殊講義Ⅰ	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-小熊 誠	2年	moguma2014@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、沖縄の文化が周囲の文化（日本や中国の民俗文化）に影響を受けながら、沖縄独自の文化を形成している事を考えます。その例として「門中」と「風水」を取り上げます。近世における門中の形成と発展を基本に、明治以降の近代にそれが大きく進展して現代に至っています。その中で、門中および風水の特徴を理解するとともに、現代の門中および風水の変化も取り上げます。</p>	<p>沖縄は、中国と日本の間に位置し、特異な歴史を歩んできました。その中で、周囲の文化の影響を受けながら、沖縄独特の文化を育んできました。現在の沖縄の文化を考えると、その歴史と変遷をひも解くとその文化の意味がよく理解できます。門中と風水は、このような視点で考えると、その内容と意味をよく理解できると思います。沖縄の文化を、見直してみましよう。</p>
到達目標	<p>沖縄の文化について、客観的に考えることをこの講義の目標とします。ここで取り上げるのは、民俗文化であり、「当たり前」の日常文化です。自分の身近にあり、当たり前と思っている民俗文化を客観的に調べてみると、沖縄文化とは何かにつながる考え方を身につけることができます。沖縄ではなぜ旧正月や旧盆を行うのか、沖縄の墓はなぜ大きいのか、沖縄ではなぜハーリーをするのかなど、身の回りには沖縄独特の民俗文化があふれています。この「なぜ」を知ることによって、沖縄文化とは何かを客観的にわかり、日本文化の中で沖縄文化はどのような位置にあるのかが理解できるようになります。</p> <p>沖縄の「当たり前」がどれほど分かるようになったか、これを授業の目標とするとともに、「評価」につなげたいと思います。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球・沖縄の歴史と民俗	授業で紹介する参考文献を読む。
	2	近世の絵画から見る歴史と民俗	授業で紹介する参考文献を読む。
	3	近世沖縄土族と家譜	授業で紹介する参考文献を読む。
	4	近世沖縄土族と門中	授業で紹介する参考文献を読む。
	5	近代以降の門中	授業で紹介する参考文献を読む。
	6	門中の多様性（名護市屋我地を例に）	授業で紹介する参考文献を読む。
	7	土族系門中・屋取系門中・百姓系門中	授業で紹介する参考文献を読む。
	8	門中の活動	授業で紹介する参考文献を読む。
	9	尚宣威王の清明祭	授業で紹介する参考文献を読む。
	10	「つながり」としての門中	授業で紹介する参考文献を読む。
	11	風水とは何か	授業で紹介する参考文献を読む。
	12	中国の風水	授業で紹介する参考文献を読む。
	13	蔡温と風水	授業で紹介する参考文献を読む。
	14	首里城の風水	授業で紹介する参考文献を読む。
15	風水とヒンプン・石敢當	授業で紹介する参考文献を読む。	
16	まとめ		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献は以下の通りです。その他の参考文献は、授業の中で紹介します。</p> <p>渡邊欣雄編『祖先祭祀』凱風社、1989年 渡邊欣雄・三浦國雄編『風水論集』凱風社、1994年 古家・小熊・萩原編著『日本の民俗12 南東の暮らし』吉川弘文館、2009年 小熊誠編著『〈境界〉を越える沖縄』森話社、2016年</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>まず、授業をよく聞いてください。そして、質問をして下さい。質問が出るという事は、自分の頭で考えながら授業を聞いているということです。ただ、教員の言う事を黙って聞くだけではなく、質疑応答の会話をしながら授業を進めていくことが大切だと思っています。ですから、質問の時間を設けます。</p> <p>授業を聞いていただきたいので、1日の授業が終了した時に「リアクションペーパー」をメールで送付していただきます。</p> <p>授業の予定は、8月16日から19日の4日間、集中講義の予定です。毎日1校時から4校時です。アルバイトは入れず、出席をお願いします。毎時間出席を取ります。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>毎日提出をお願いするリアクションペーパーを評価します。それと出席を加味して「平常点」を付けます。平常点30%とレポート70%で最終評価を決定します。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>授業終了後、沖縄文化を、あるいは沖縄出身者以外の人は自文化を客観的に見直して、自己理解そして他者理解につなげてほしいと思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	歴史学特殊講義 I	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-近藤 健一郎	2年	kkondo@edu.hokudai.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近代沖縄における政治的な流れをふまえて、その時代に沖縄の人々の生活の変化について主に「教育」の側面から考えたい。この授業を通じて、現在の沖縄について考える視点として、歴史的な時間軸のなかで現在をとらえるという見方・考え方を伝えられたらと考えています。	近代沖縄史で取り上げるべき事項はたくさんあります。必ずしも応えられるとは限りませんが、集中講義で取り上げてほしいトピックがあれば、上記のメールアドレスまでお知らせください。授業担当者は、近代沖縄教育史、とくに標準語励行や方言札など、ことばの教育の歴史を中心に、いわゆる「同化」教育の歴史的な研究をしています。
到達目標	この授業を通じて、近代沖縄史に関する基礎知識、歴史的に現在を見ようとする考え方、史料によって歴史的な事象をとらえる学習方法を修得できるようになることが到達目標です。具体的にすれば、 ①1870年代から1945年の近代沖縄がいくつかの時期に分けられることを理解でき、それぞれの特徴を概観できるようになる。 ②近代沖縄のできごとが昔のお話ではなく、現在に連なるものとしてとらえられるようになる。 ③近代沖縄に書かれた史料を読んで、それが意味することを読み取れるようになる。 これらのことを到達目標にして、授業を展開します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（授業のねらいや進め方） 1日目午前	受講の目標を考える
	2	「琉球処分」から「旧慣存続」（1870年代～1890年代半ば） 1日目午前	配布資料を読み直し、理解する
	3	琉球処分直後の学校設置と『沖縄対話』 1日目午後	配布史料を再読し考える
	4	「旧慣改革」（1890年代後半～1920年） 2日目午前	配布資料を読み直し、理解する
	5	沖縄における徴兵令施行 2日目午前	配布資料を読み直し、理解する
	6	方言札の始まり 2日目午後	配布史料を再読し考える
	7	「ソテツ地獄」（1920年代） 3日目午前	配布資料を読み直し、理解する
	8	沖縄からの移民・出稼ぎ 3日目午前	配布資料を読み直し、理解する
	9	移民・出稼ぎの奨励と教育 3日目午後	配布史料を再読し考える
	10	総力戦体制から沖縄戦（1930年代後半～1945年） 4日目午前	配布資料を読み直し、理解する
	11	学徒隊 4日目午前	配布資料を読み直し、理解する
	12	「学童疎開」 4日目午後	配布史料を再読し考える
	13	ことばの教育史1－「普通語ノ励行方法答申書」（1915年） 5日目午前	配布史料を再読し考える
	14	ことばの教育史2－「人気者」（1935年） 5日目午前	配布史料を再読し考える
15	まとめ 5日目午後	これまでの授業を振り返る	
16	レポート作成 5日目午後	これまでの授業での理解を整理する	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	教科書は使用しません。 基本的に1～4日目午前1限は、新城俊昭『高等学校 琉球・沖縄史』を用いて、概説的な知見を整理します（必ずしも高等学校、大学において、沖縄近代史を学習しているとは限らないという前提に立っています。前提に当てはまらない学生は、既習事項の復習と思ってください）。 1～4日目午前2限は、新旧の『沖縄県史』などの基本文献を用いて（文献は授業で紹介し）、ある事象をもう少し詳しく学習します。

学びの実践	学びの手立て
	授業で配布・紹介する文献を通じて、近代沖縄が時期によってどのように変わっていたかを理解できるよう、歴史的知見を獲得するよう努めてほしい。そして、授業で配布する史料を自ら読み、歴史的知見を豊かなものにしてほしい。

学びの実践	評価
	平常点は、以下のように評価する。1限については配布資料を見ながらの確認テスト。2限と3限については授業直後に提出するコメント用紙の記述内容。あわせて60%。 レポートについては、授業で興味をもった史料（自ら探すことも可）をどのように読み、とらえたかを記すもの。40%。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	(1) 琉球・沖縄史はもちろん、沖縄に関するあらゆる事項と関連する。各自の関心ある領域を深める一助にしてほしい。 (2) 史資料をどのように読むかに留意して、各自の関心ある領域を深めてほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉学特講A	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高山 直樹	2年	授業終了後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>現在、地域共生社会の構築に向けて、各地で様々な取り組みが行われている。本科目は、広く全国の先進事例を学び、地域共生社会を実現するための理念、方法、課題等を学ぶ。講義では、多様な分野（高齢者、障害児者、子ども、ひきこもり等々）の生活課題をテーマにして、今後の日本の社会福祉の方向性を探っていく。</p>	<p>2016年7月、神奈川県内の障害者施設において元職員による殺傷事件がありました。この事件は差別、優生思想、入所施設等の様々な問題が絡み合っています。本講では、この事件に加え、現代的課題を取り上げ、地域共生社会のあり方を掘り下げて考えていきます。専門の勉強を始めたばかりの2年次にも理解できる内容です。</p>
到達目標	<p>地域共生社会の理念および様々な事例について学ぶことができる。また、多様なセクターの特徴を学ぶことができる。さらに、異分野異業種との協働による取組みにおいてソーシャルワーカーに期待されていることを理解することができる。広く全国の取組み事例を学んだ上で沖縄の課題を見出すことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講師自己紹介、講義オリエンテーション、その他	配布資料を復習する
2	少子高齢化、人口減少社会の現状を把握する	教員が提示したテーマについて議論	
3	地域共生社会が求められている社会背景について理解する	教員が提示した宿題をする	
4	事例1-1	配布資料を復習する	
5	事例1-2	教員が提示したテーマについて議論	
6	事例1-3	教員が提示した宿題をする	
7	事例2-1	配布資料を復習する	
8	事例2-2	教員が提示したテーマについて議論	
9	事例2-3	教員が提示した宿題をする	
10	事例3-1	配布資料を復習する	
11	事例3-2	教員が提示したテーマについて議論	
12	事例3-3	教員が提示した宿題をする	
13	地域共生社会構築のプロセスにおけるソーシャルワーカーの役割①	配布資料を復習する	
14	地域共生社会構築のプロセスにおけるソーシャルワーカーの役割②	配布資料を復習する	
15	地域共生社会構築のプロセスにおけるソーシャルワーカーの役割③	配布資料を復習する	
16	まとめ	レポートをまとめる	
テキスト・参考文献・資料など	資料等は配布する。		
学びの手立て	<p>①履修の心構え：本講義は、地域共生社会の構築について理論的に学ぶと共に具体的事例を学ぶ講義です。また、ソーシャルワーカーの役割について多角的に考えることを目指しているため、これらの点に関心があることが望ましい。集中講義形式なので、あらかじめスケジュールを調整して講義に集中できるようにする。</p> <p>②学びを深めるために：実際にアクションを起こしたり関連文献を読んだりして学びを深めましょう。</p>		
評価	中間レポート（40%）、最終レポート（40%）、平常点（20%）		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：社会福祉専攻専門科目すべてにつながる内容。専門分野の実践を理解する上でベースとなる科目。 次のステージ：地域共生社会の理論研究にふれて考えを深める。ボランティアとして地域の取組みに参画する。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	租税実務論	集中	集中講義	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	沖縄税理士会	2年	info@okizei.or.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>会計及び税法の講義を通じて、学生の税理士及び税理士制度への関心を深め、税理士を目指す者及び税理士事務所等に就職する者の増加を図る。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の財政と税金のしくみについて理解できる。 様々な税金について、理解を深めることができる。 税理士の職務内容を理解すると共に、税理士事務所での就職する意義について理解できる。 	<p>税金と社会生活には大きな関わりがあります。その税のしくみについて、分かりやすく講義しますので、将来税理士を目指す方や税理士事務所での就職することに興味があるかたは、一緒に学びましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	租税実務論 概論	シラバスの確認と理解
	2	所得税	前回の講義についての復習
	3	所得税	前回の講義についての復習
	4	日本の財政と税制	前回の講義についての復習
	5	所得税	前回の講義についての復習
	6	所得税	前回の講義についての復習
	7	広がる税理士ニーズ	前回の講義についての復習
8	法人税	前回の講義についての復習	
9	法人税	前回の講義についての復習	
10	税理士って？資格取得～実務	前回の講義についての復習	
11	消費税	前回の講義についての復習	
12	消費税	前回の講義についての復習	
13	税金の仕組みと歴史	前回の講義についての復習	
14	相続・贈与	前回の講義についての復習	
15	相続・贈与	前回の講義についての復習	
16			
	テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> 講師で資料を準備する。 	
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 集中講義で実施するため、毎回の講義には必ず参加すること。やむを得ず欠席する場合には必ず連絡すること。 基礎的な税のしくみについて、本やインターネットで調べておくことが望ましい。 	
	評価	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度（30%）とレポート課題（70%）を踏まえ、総合的に評価する。 	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> 法律学科の提供科目である「租税法」を履修することが望ましい。 学んだ知識を実践の場で活かすために、税理士事務所へのインターンシップを積極的に行ってほしい。

※ポリシーとの関連性

「社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能」を教授する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ワーカーズコープ論	集中	集中講義	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ワーカーズコープ論教員	1年	村上 了太(内線:5629) または murakami あつと okiu.ac.jp まで連絡すること。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、現在と将来を考えるために設置された。たとえば、「学生として、今何をすべきか分からない」、「進路を考えると不安になる」、「大学生活はこんなはずではなかった」などと感じて日々過ごしている学生も少なくない。このような不安や不満は、本講義で示唆される「一歩前へ踏み出す力」を涵養することで解消される。</p> <p>到達目標</p> <p>①卒業後の進路について主体的に考えることができる。 ②学生生活の様々な経験を「有意義である」と説明できるようになる。 ③「働くとは？」という考えに対して多角的な視点が生まれてくる。</p>	<p>①社会人講師にも登壇して頂きます。多様な価値観を吸収するのみならず、質問も投げかけてみてください。 ②時間厳守は当然のことです。 ③レポートは講義中に提出期日と課題を指示します。</p>

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>2</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ①</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>3</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ②</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>4</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ③</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>5</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ④</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>6</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑤</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>7</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑥</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>8</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑦</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>9</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑧</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>10</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑨</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>11</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑩</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>12</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑪</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>13</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑫</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>14</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑬</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>15</td><td>本講義もまとめ(働くこと、生きること)</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>16</td><td>予備日</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション	関連書籍による理解	2	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ①	関連書籍による理解	3	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ②	関連書籍による理解	4	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ③	関連書籍による理解	5	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ④	関連書籍による理解	6	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑤	関連書籍による理解	7	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑥	関連書籍による理解	8	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑦	関連書籍による理解	9	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑧	関連書籍による理解	10	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑨	関連書籍による理解	11	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑩	関連書籍による理解	12	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑪	関連書籍による理解	13	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑫	関連書籍による理解	14	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑬	関連書籍による理解	15	本講義もまとめ(働くこと、生きること)	関連書籍による理解	16	予備日		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	オリエンテーション	関連書籍による理解																																																			
2	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ①	関連書籍による理解																																																			
3	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ②	関連書籍による理解																																																			
4	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ③	関連書籍による理解																																																			
5	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ④	関連書籍による理解																																																			
6	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑤	関連書籍による理解																																																			
7	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑥	関連書籍による理解																																																			
8	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑦	関連書籍による理解																																																			
9	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑧	関連書籍による理解																																																			
10	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑨	関連書籍による理解																																																			
11	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑩	関連書籍による理解																																																			
12	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑪	関連書籍による理解																																																			
13	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑫	関連書籍による理解																																																			
14	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑬	関連書籍による理解																																																			
15	本講義もまとめ(働くこと、生きること)	関連書籍による理解																																																			
16	予備日																																																				
	テキスト・参考文献・資料など																																																				
	講義中に指示する。																																																				
	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え 予習と復習に取り組む必要がある。 ②学びを深めるために 大学とは「知考書」のプロセスを理解して鍛錬する場でもある。ゆえに、1)ノートにメモをとる、2)各回の講義の意味を考える、3)将来像を設計し、機会に応じて意思表示する場を設ける、などが必要である。</p>																																																				
	評価																																																				
	各回の理解度(25点)、提出物(25点)、レポート(50点)の割合で評価する。																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ジョブインタビュー入門、自己表現入門、キャリア・デザイン、インターンシップ(正課および正課外)、海外留学、キャリア支援課の利活用、県内外に存する関連施設の視察など。</p>
-------	--